

地域実践活動発表趣意書

士会名 団体名	京都府建築士会推薦 森田農園	支部名		発表者氏名	森田 良彦
発表者 勤務先	森田農園 ベジフレンド	勤務先 所在地	〒603-8043 京都市北区上賀茂池端町 25 Tel. 075-791-4880 Fax. 075-791-5986		
事業名称	京都の野菜・有機栽培 地面に土を残そう	事業費			
事業開始年	年				
事業概要	地産地消をすでに長年に渡って実践。森田農園の野菜は市場に流通させた事は無い。顔の見える直接販売をすでに代々受け継いでいる。上賀茂では昔から野菜は農家の女性が売り歩く直接販売(振り売り)が中心だった。持続可能な地域社会が再び注目される時代になったが、それはずっと続けて来た事である。				
目的	もともと病気や虫に弱い野菜に農薬を極力使わずにいかに栽培するかが課題である。有機野菜は安全、安心な野菜ではない。有機農業と云う言葉の不明確さやそれに付きまとう危険性は世間では語られない。堆肥による汚染、硫酸態窒素、重金属の蓄積、それらを生産者は充分理解する必要がある。毎日野菜の顔を見乍ら摂取させ、必要ならば最小限の養分を補います。科学的、物理的、生物的安定のすべてを満たした土壌は自然界を浄化する能力がある。又、微生物をおおいに利用すると抗酸化力が強く、汚染物質までも分解してくれる。				
経過	40年程前までは稲わらと生の鶏糞を積み重ねて発酵させたものを使っていたが、現在は市販の堆肥で土の状態を健全に保ち、水は農業用地下水をろ過して使っている。野菜の殺菌には強電解水、品質向上にキトサンを使う等自然界の摂理に従った残留物のない栽培を行っている。				
主な成果	「野菜は生でかじってみると良い。」渋みや苦味を感じたら土のバランスが悪いと云う事です。人間は結局土を食べている事と同じです。有機だからと云っても皆安全でおいしいと言う訳ではない。住宅街の中に畑がある事で自分も野菜も消費に顔を見せる事ができる新鮮な野菜を届けている。これは大変緊張感のある仕事でもある。				
推進組織					
関わりのある他団体、異業種の専門家等	京都府建築士会、その他				
今後の計画	京野菜は一般の野菜より栄養価が高く、アトピーや成人病にも効果がある。今後はそうした病気に対して効果の上がる野菜をオーダーメイドできないものかと考えている。				